

平成30年度「知事と市町長の1対1対談」(志摩市) 概要

- 1 対談市町 志摩市 (竹内 千尋 志摩市長)
- 2 対談日時 平成30年10月15日(月) 16:00~17:00
- 3 対談場所 横山ビジターセンター
- 4 対談項目1 SDGsの取り組みについて
対談項目2 一般国道167号磯部バイパスなどの整備について
対談項目3 市内高校の活性化について
- 5 対談概要

対談項目1 SDGsの取り組みについて

(市長)

平成30年6月15日、志摩市は「SDGs 未来都市」に認定され、御食国(みけつくに)食文化創生事業等に取り組んでいます。8月には、イタリアの大学生が、志摩市で鰹節作りや海藻の加工、海女さんとの交流などのプログラムを体験し、食文化を勉強されました。

三重県水産研究所においては、伊勢えびについて、資源を保護しながら漁獲量を増やす研究をされており、その内容を研究員の方に熱心にご教示いただいたことで、地元の漁師の方々も本気になりました。

志摩市の持続可能な水産物の普及・情報発信の取組として、サステナブルシーフードを推進する東京の若手シェフグループがおり、作り手と消費者をつなぐ食の通訳者であるこの方々に実際に志摩に来ていただき、漁などを体験していただきました。また、逆に、志摩の漁師が東京へ行ってPRを行うということも行っています。

※SDGsは、「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略称で、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成されています。

(知事)

SDGsは、大変重要なコンセプトで、県も先日経営戦略会議で議論したところですが、志摩市においてもまさに取り組んでいただいておりますが、取組を持続可能なものにしていくには、さまざまな人とつながり、取組を共有しプロセス

を透明化することが大切だと思っています。

水産資源につきましては、国の「水産政策の改革」を踏まえ、平成 31 年度は、一次産業の資源管理の取組を重視したいと思っています。

資源の回復に向け、アワビについては、コンクリート板造成漁場の放流効果調査を波切地区で、アワビの大型種苗の放流を甲賀地区で試験実施しています。クルマエビについては、これまで、標識放流、漁獲物の市場調査などにより資源動向の評価を進めるとともに、現在、安乗地区で、放流種苗の生残率を高めるため、昼間よりも食害が少なく夜行性であるクルマエビに適した、夜間放流の実証試験に取り組んでいるところです。

県では、10 月を「イセエビ強化月間」として、首都圏におけるプロモーションを通じ、知名度のさらなる向上に取り組んでいます。

(市長)

志摩市には、有数のウバメガシ群生林があり、ウバメガシを用いた備長炭を作る取組を進めているところです。市役所内に伊勢志摩備長炭のプロジェクトチームも作りました。

この備長炭は、市内のうなぎ屋さんや志摩観光ホテルなどでも使っていており、「伊勢志摩備長炭で焼いた料理」ということをアピールしていきたいと思っています。今後も、活用方法なども含め、いろいろなアドバイスをいただけるとありがたいです。

県におかれては、平成 31 年 4 月に開講する森林・林業アカデミーにおいて、スギ・ヒノキの林業だけでなく、炭焼きなど里山管理についても対象とし、幅広い分野で林業の活性化を図っていただきたいと思います。

(知事)

平成 31 年度から森林管理の法律が変わり、森林経営管理については基礎自治体が担うこととなります。その財源としては、国は森林環境譲与税で、県は森と緑の県民税でサポートします。

平成 31 年 4 月に開講する働きながら学べる「みえ森林・林業アカデミー」は、10 月にプレ開講します。スギ、ヒノキを対象とした従来の林業だけでなく、炭焼きなどの里山管理などを含め、広く森林資源の活用等を議論できる場を設定することとしていますので、ぜひ貴市においても、これらの講座の受講についてご検討いただけるとありがたいです。さらに、その受講生が中心となり、貴市における炭焼きなどの取組の横展開が進んでいくことを期待します。

対談項目 2 一般国道 167 号磯部バイパスなどの整備について

(市長)

伊勢志摩連絡道路の第二伊勢道路が平成 25 年 9 月に開通し、平成 29 年 3 月に伊勢二見鳥羽ラインが無料化され、平成 29 年 12 月には伊勢志摩連絡道路の鵜方磯部バイパスが開通しました。一帯の道路の利用度が増し、市民は感謝しています。

無料化と第二伊勢道路の一体性が高まり、利用者数が増加したことで、磯部バイパス整備への期待が高まっていますので、磯部バイパスの早期完成をめざしての事業推進をお願いします。

(知事)

伊勢志摩連絡道路の一部である国道 167 号磯部バイパスにつきましては、平成 24 年度から補助事業として、志摩市磯部町恵利原から磯部町五知までの約 2.5km 区間の整備に取り組んでいます。

地元調整等において、貴市に多大なご協力をいただいたおかげをもちまして、平成 30 年度に用地取得が全て完了しました。平成 31 年度に速やかにトンネル工事に着手できるよう、現在、河川付替工事や道路工事を進めています。

また、平成 31 年度のトンネル工事に必要な予算配分が行われるよう、5 月に関係部長が国土交通省へ要望活動を実施しました。市長におかれても、7 月に「伊勢・志摩連絡道路建設促進同盟会」会長として、石井国土交通大臣と財務省へ要望活動を実施していただき、大変感謝しています。

今後は、平成 31 年度に、確実にトンネル工事に着手できるよう、11 月に行う「平成 31 年度国の予算確保に向けた要望」の際、私も要望活動を実施する予定です。

(市長)

浜島港・賢島港が、平成 29 年 6 月に国土交通省から全国で 96 番目に「みなとオアシスしま」として認定されました。みなとオアシスは、港を核とした住民の交流、観光振興を通じて地域の活性化を目的とした事業です。

平成 30 年 6 月 2 日に開催された第 58 回伊勢えび祭りでは、「みなとオアシスしま」の宣伝のためのブース出店を行いましたし、8 月に北海道紋別市で開催された「みなとオアシス S E A 級グルメ全国大会」では、志摩市の特産物の「あおさ」を使った「あおさうどん」を出品し好評を得ました。

将来的に志摩市でも S E A 級グルメ全国大会を開催するなど、港を活用した地域振興策を展開したいと考えていますので、賢島港の老朽化している護岸の整備をお願いしたいと思います。

また、浜島港においても港を活用したまちづくりを行っていききたいので、三重県の支援・協力をお願いします。

(知事)

「みなとオアシス志摩」を活用した地域振興策を企画・立案・実施する際には、施設の使用許可について柔軟な対応を検討するなど、必要な支援・協力を行っていきますので、具体的な内容が決まればご相談ください。

現在、港湾施設や海岸施設の整備については、老朽化対策や耐震対策を中心に事業を進めています。賢島港においては、平成 29 年度、港湾施設の点検を行いました。今後も施設のパトロールや点検を継続し、優先順位を志摩市と協議しながら必要に応じて対応していきます。

今後は、ハード整備と併せて、平成 31 年度中に高潮の浸水想定区域図を作成する予定ですので、ソフト面でも命を守る対策に取り組んでいきたいと思います。

対談項目 3 市内高校の活性化について

(市長)

三重県では、県立高等学校の活性化に向けた取組を進める中で、1 学年 3 学級以下の高校について、活性化協議会を設置しており、平成 29 年度から活性化に向けた取組を進めています。

志摩高校では、ゲストティーチャーを招いての学習や進学をめざした医療系の勉強を市民病院において実施しています。

また、地元の雇用につながる取組として、商工会と協働し「高校生と企業の交流会」を志摩高校、水産高校で開催しています。

平成 30 年度からは、市の新規事業として、志摩高校生を対象とした海外留学応援奨学金制度を設け、国際的な視野を持つ子どもたちを応援しています。

水産高校は、三重県唯一の水産高校、また、三重県の水産業の担い手を育てる学校、さらに、海を活用したアクティビティなどの重要な役割を持った高校であると考えています。

県立高校両校とも特色を活かし活性化にしっかりと取り組めるよう、市としても支援していきます。

(知事)

志摩高校と水産高校では、平成 29 年度から活性化協議会を設置し、志摩市からは教育長、総合政策課長、水産課長等に委員として参画していただくことも

に、両校の活性化の取組にご支援をいただいていることに感謝しています。

志摩高校は生徒の約 90%が志摩市出身で、水産高校は県内他地域・県外から入学者がいますが、約 70%が志摩市出身の生徒です。両校は、志摩市の子どもたちが高校教育を受けることのできる大切な学びの場となっています。

一方で、志摩市の中学校卒業者の約 65%が、伊勢市を中心とした市外の高校に進学しているため、市内の中学生から両校が進学先として選ばれるよう、魅力ある学校づくりの取組を進めているところです。

志摩高校の主な取組として、志摩市に関する事項を教科横断的に学習する「志摩学」や、外国人観光客に英語で案内をすることを目標とした実用的な英会話学習の実施、志摩市の留学奨学生制度を活用したオーストラリア語学研修、志摩市民病院の支援による体験学習、防犯ボランティアグループ「アフターG7」と鳥羽署が協力した啓発活動等を実施しています。

水産高校の主な取組としては、地元産品を使った商品開発や、志摩市や自治会主催の地域防災訓練への参加、地元スーパーを会場とした「かつおの解体ショー」で試食販売実習等を実施しています。

平成 31 年度は、地域課題の解決策を考える学習を通じて、これからの時代に求められる「生きる力」を育むキャリア教育を考えていますので、是非そのようなものも活用しながら、志摩市内からより多くの中学生が志願するよう、学校の魅力発信に努めていきたいと考えています。志摩市におかれましても、引き続き、市広報誌を活用した学校紹介や両校の活動の地域へのPR等、活性化の取組へのご支援をよろしく申し上げます。